

国立天文台と三鷹市で協定を締結しました



画像出典：三鷹市HP

国立天文台と相互協力に関する協定を締結しました

令和2年（2020年）12月3日、「国立天文台と三鷹市の相互協力に関する協定書」の締結式を行い、常田国立天文台長、河村市長がそれぞれ協定書に署名しました。

国立天文台との更なる協力・連携の発展に向けて

国立天文台とは、高度な学術的資源の普及・活用や、宇宙・自然・科学・文化などに関する事業等について協力・連携を進めていくため、平成21年（2009年）に「国立天文台と三鷹市の相互協力に関する協定」を締結し、これまで、「星と森と絵本の家」や「みたか太陽系ウォーク スタンプラリー」、「天文・科学情報スペース」など様々な事業で連携を図ってまいりました。

この度、同協定に国立天文台周辺地域のまちづくりに関する項目を追加しました。今回の協定締結を契機に、これまでの協力・連携を発展させ、魅力あるまちづくりを進めていきます。

国立天文台周辺の現況① 一大沢地域の今昔（1948年の航空写真より）

- 昔の大沢は、畑作と養蚕を中心に水田耕作も行われ、街道沿いでは宿場も見られました。
- その後、国際基督教大学、(株)SUBARU、天文台等の大規模な土地利用転換が行われ、地区内での住宅・寺社等の移転を繰り返し、関東大震災以降に市街化が進行し、現在に至ります。
- 国分寺崖線や天文台で多くの自然環境が保全され、大沢地域の魅力となっています。



画像出典：国土地理院 1948年撮影

国立天文台周辺の現況① 一大沢地域の今昔（2019年の航空写真より）



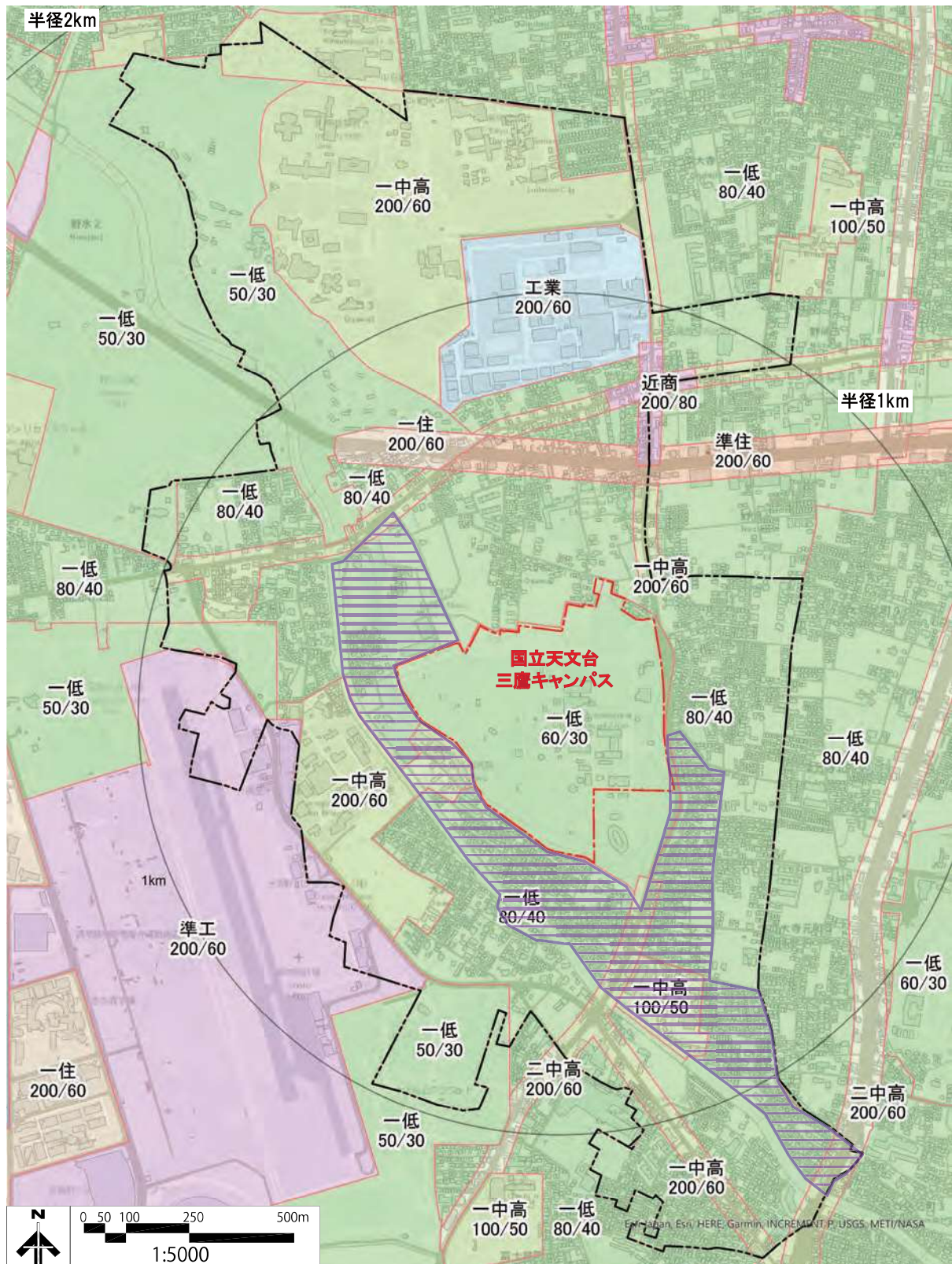
画像出典：国土地理院 2019年6～11月撮影

国立天文台周辺の現況③ 一都市計画一

- 天文台を含む一帯は、第1種低層住居専用地域が中心で、商業施設の立地が制限されています。
- 天文台敷地は、特に厳しい制約があり、教育研究施設としての用途と一部不整合が生じています。
- 国分寺崖線沿いに宅地造成工事規制区域に指定されています。

凡例

	第1種低層住居専用地域		準住居地域
	第2種低層住居専用地域		近隣商業地域
	第1種中高層住居専用地域		準工業地域
	第2種中高層住居専用地域		工業地域
	第1種住居地域		宅地造成工事規制区域



国立天文台周辺の現況④ 一人口一

■大沢地域の人口・世帯数推移

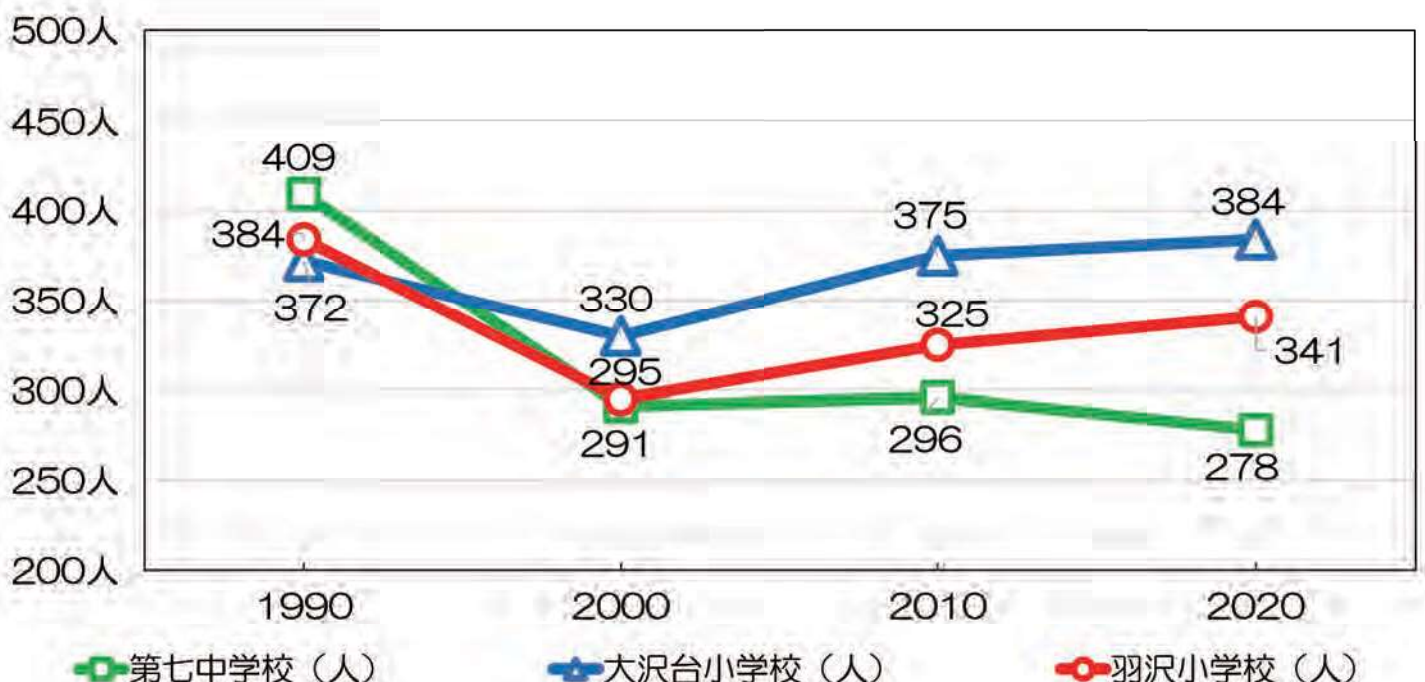
○大沢地域の人口は、1970年代から漸増し、2020年には約1.4倍に増加しました。



■おおさわ学園の児童・生徒数推移

○小学校児童数は、1990年をピークに、2000年にかけて減少し、近年は微増しています。
中学校生徒数は、1990年以降減少傾向です。

○1学校あたりの児童・生徒数の市内平均（2020年）小学生603人、中学生468人と比較すると、市内で最も少ない状況です（※）。（※羽沢小1番目、大沢台小2番目）



出典：統計みたか、三鷹市統計書、三鷹市統計データ集（1970～2020）